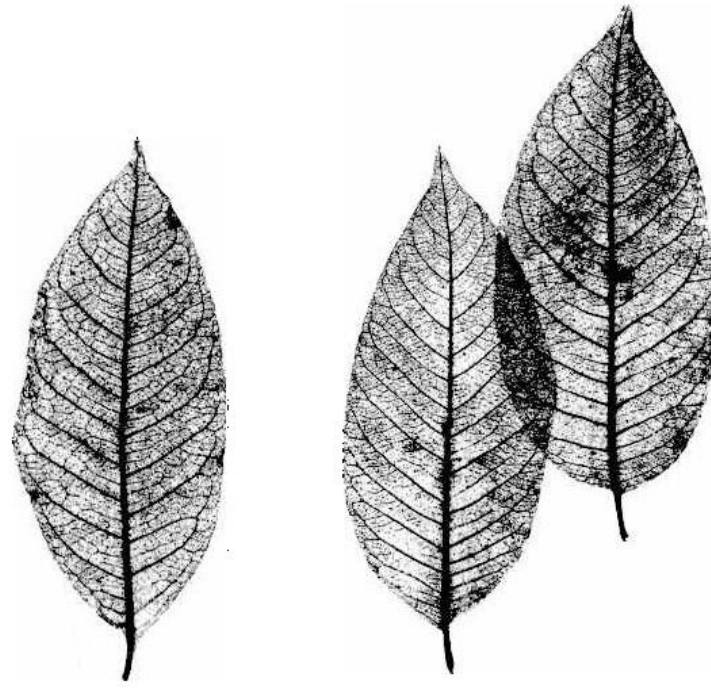
日本百名山

嵐山光三郎

知恵の森文庫



日本百名町（にほんひゃくめいちょう）

嵐山光三郎（あらしやまこうざぶろう）

2005年 4 月15日 初版 1 刷発行

発行者——加藤寛一
印刷所——慶昌堂印刷
製本所——ナショナル製本
発行所——株式会社光文社
〒112-8011 東京都文京区音羽1-16-6
電話 編集部(03)5395-8282
販売部(03)5395-8114
業務部(03)5395-8125
振替 00160-3-115347

©kōzaburou ARASHIYAMA 2005
落丁本・乱丁本は業務部でお取替えいたします。
ISBN4-334-78353-8 Printed in Japan

R 本書の全部または一部を無断で複写複製(コピー)することは、著作権法上での例外を除き、禁じられています。本書からの複写を希望される場合は、日本複写権センター(03-3401-2382)にご連絡ください。

日本百名町

嵐山光三郎

光文社

日本百名町

嵐山光三郎

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

日本百名町　目次

序章　いい町の条件　11

I　日本名町紀行　33

北海道八雲町は、かすみ草が似合う北の町　34

晩秋の駅弁売りの声高し　45

津波に負けないセタナのアヤシイ四人組　53

遠野は仙人の隠れ里　65

佐原の中村屋酒店の奥さんはゾクゾクする美人です　70

わが町国立には山口瞳さんが住んでいた　81

白州の水でモルトの夏ひらく　93

信州駒ヶ根の明治亭ソースカツ丼はタ焼けの味がする　101
能登・門前町へ行け　111
大阪西成区に占星術師スピカのおっちゃんがいた　116
城崎温泉おばさんストリップはセピア色の汗をふく　127
日本海沿いの倉吉に棲む中村ボーズとは何か　144
ひとすじの線路のさきは冬の海　154
醤油飴を知っているか　165
阿蘇トロッコ列車は、いちおう自転車よりは速い　170
ざんぶりとヤシの葉蔭で初便り　184

II 日本百名町決定 193

北海道編 197
東北編 208
関東編 218
北信越編 233
東海編 244
近畿編 254
中国編 266
四国編 275
九州・沖縄編 280

あとがき紀行　295

解説　旅の上塗り　坂崎重盛　310

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

本扉ロゴデザイン　平野甲賀
章扉イラスト　坂崎重盛

序章　いい町の条件

ぼくは年がら年じゅう旅をしている。
そうこうするうちに「いい町を百選してみよう」と思いたった。
それで『日本百名町』というタイトルになったのだが、では「いい町の条件とはなにか」と考えると、これがなかなか難かしい。

町は人が作る。
いきなりいい町を作ろうとしたって、そうそう簡単にできるものではない。
町は生き物であり、町の感情があり、呼吸があり、変転があり、たえず流動している。
流れ動くしぶきが大きな流れとなって町の力となる。
歴史を秘めた古風な町があり、貧しきながらガンコな町があり、昭和初期のモダーンな町があり、タンボがある町、港町、荒野のなかの小さな町、新興の町、といろいろな性格

の町があるけれども、要はその町が生きているかどうか、が重要である。

町が生きているバロメーターになるのは、いくつかの条件がある。まず、

①家族経営の豆腐店があるか

町の小さな豆腐製造業は効率のいい仕事ではない。朝は早いし、仕込みは大変だし、苦労は多いのに儲けが少ない。いまはスーパーが全盛で大店舗からドーンと工場生産の安価な豆腐が送られてくる。それで昔ながらの家族経営の店は閉店してしまった。

町に昔ながらの豆腐屋があるのは、町の住人が、その豆腐屋を大切にして、心から感謝しているからである。人情があって、生きている町には、こうした豆腐店が残っている。町の人が、スーパーではなくて、わざわざ、そういった豆腐店へ買いに行く心意気にこたえて、商売をつづけている。これが町の共同体を支えている。同様に、

②魚屋がある
③八百屋がある
④花屋がある
⑤米屋がある
⑥パン屋がある
⑦自転車屋がある

⑧酒屋がある

⑨精肉店がある

こういった専門の小売店が、それぞれの店の機能をはたしている町がいいのだ。専門店が大型のスーパーにのみこまれたときから町は崩れていく。

⑩書店があること

これは、町の力の重要なバロメーターである。学生街がすがすがしいのは、書店が多いからで、町のココロザシが高い。いまは書店の一軒もなくなってしまった町があり、こういう町は、ココロザシある人が出て行ってしまう。

⑪銭湯があること

銭湯は町の社交場である。東京の下町では、銭湯は情報収集の拠点であり、自宅に風呂があるのに、銭湯を好む客が多い。共同湯は共同体の核なのだ。

⑫大衆食堂があること

⑬ラーメン屋があること

うまい大衆食堂やラーメン屋があるのは、その町がいかに生活を楽しんでいるか、の証明となる。

⑭フランス料理屋が少ないこと

近ごろは訳のわからぬフランス料理店が増えた。六本木や青山が堕落したのはそのためである。フランス料理店が増えると、成金ギャルやおフランス婆さんが繁殖して、町は化粧くさくなる。洋食屋があればいいのだ。

⑮パチンコ屋がないこと

パチンコ屋はやたらと音がうるさくて、町の生活を乱す。ゲームセンターの類いも不用である。こういった遊戯場は盛り場の繁華街へ移れ。

⑯カラオケ・ボックスがないこと

住宅地や、駅前マンションの横にできたカラオケ屋は、住人の敵である。住んでいる人のことを考えろ。カラオケ・ボックスには、モノを考えないアンちゃんやネエちゃんが、ウンコ蠅のように群がり、町の公害である。

パチンコ屋・ボウリング場はタンボを破壊し、カラオケ・ボックスは静かな町の生活を破壊し、大型店舗は町の経済を破壊した。

⑰駅ビルや大型店舗がない町

が理想だが、大都市にはあるのが当り前になった。したがっていちがいに悪いとはいえない。しかし、全国の駅という駅に似たような大型ビルができるのはいかがなものか。この両者はガン細胞のように伝統ある町を侵食し、町の経済を破壊しつづけている。便利な

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com